

日本語教育学研究と学習者言語研究のクロスポイント

ポストメソッドと
TBLT (Task-Based Language Teaching)
ー 応用言語学の視点と原理に基づく言語教育デザインー



百濟正和 氏
(英国・カーディフ大学)

2019年3月1日(金)16:00~17:30 (終了後茶話会あり)
東京外国語大学留学生日本語教育センターさくらホール

【百濟先生からのメッセージ】

本講演は、TBLTといわれるタスク主導の言語教育アプローチの理解を深めることを目的とします。TBLTは英国で生まれたコミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング (Communicative Language Teaching, CLT) の発展形であり、CLTはポストメソッドムーブメント、そして原理に基づく言語教育実践の起点と考えられています。この点を理解するために、TBLT以前の英国における言語教育の歴史的な変遷について簡単に説明し、応用言語学が第二言語教育実践で果たしてきた役割について説明を加えます。次にタスクの定義を整理した後、「タスクが学習を主導する、または促進する」ということについて考察を加えたいと思います。この中でTBLTという言語教育アプローチが目指す言語教育の目的について明らかにする予定です。

参加無料 | どなたでもご参加いただけます
東外大以外からのご参加も大歓迎です☺
お申込みはこちらから <https://goo.gl/ff3TyD>

3/1百濟正和先生



◆第二言語習得研究および日本語教育研究に取り組みたいと考えている方にむけて、「研究を進めていくうえで考えたい こと、知っておきたいこと」について、2018年12月から2019年3月まで、毎月1回を目安に様々な先生方にレクチャーをしていただきます。イベントでは参加者の方にも積極的にご発言いただくようにしたいと思います。多くの学生さんにお越しいただけたら嬉しいです。